【草花の部屋】

ナス（ナス科ナス属　Solanum melongena ）

和名：ナス（茄子、茄、那須）　別名：ナスビ、ラクソ（落蘇）　英名：eggplant

ナス目　一年草　原産地：インド

花言葉：よい語らい、優美、希望、真実、つつましい幸福　花色：紫

← 写真-１　ナス
撮影日：2019 年 06 月 04 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：Ｍ　さん

↓　写真-２　ナスの花
撮影日：2019 年 06 月 04 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：Ｍ　さん

← 写真-３　ナスの果実
撮影日：2019 年 06 月 16 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：Ｍ　さん

大和郡山市郊外の家庭菜園で見かけました。特別、珍しい植物ではありませんが・・。

インドが原産地のナスは、高温多湿を好み、日本の夏にあった育てやすい野菜です。葉の脇に淡い紫色の花を下向きにつけます。葉は卵形で互生。実の形は様々で、長ナス、

卵形ナス、丸ナスなどの種類があります。ナスは連作障害が出やすいため、連作は避けるようにします。心配な場合は、接木苗を利用すると安心です。

ナスを連作した場合のみならず、トマト、ジャガイモ、ピーマン、シシトウなど同じナス科の野菜とも相性が悪く、何も処置を施さない場合、5～7 年以上、間を空けないと障害が起きやすいといわれています。品種は日本で概ね 180 種類を超え、世界では 1,000 種類もあると言われています。

日本へは、奈良時代に中国経由で渡来したそうです。和名の由来は、夏にとれる野菜「夏の実」から「なすび」になったとする説が有力だそうです。

一番花までの脇芽は摘み取り、一番花が咲く頃に、主枝と勢いの強い枝を 2 本残して 3 本仕立てにすると良いそうです。夏になり、枝が混みあってきたら剪定します。細かく分枝した側枝を切り除き、太く充実した枝を選んで、葉を数枚残し、草丈の 1/2 を目安に剪定し、追肥もします。

涼しくなった頃から再び旺盛に葉茎が伸び、新しい枝からは「秋ナス」としておいしい果実が収穫できます。

ナスは肥料不足になると花柱（雌蘂）が短くなります。雄蕊より雌蘂が長い状態を保っていると健全だそうです。

また、ナスの光沢ある果皮の色は、ナスニンと呼ばれるアントシアニン系色素であり、ポリフェノールの一種。高血圧や動脈硬化を予防する効果が期待できると言われています。

＜ちょっと一言＞

＊言い習わしとして・・。

・「秋茄子は嫁に食わすな」

嫁を憎む姑の心境を示しているという説と嫁の体を案じた言葉だという説があるそうです。

『広辞苑』によれば、この言葉の元になっている歌があり、その中の「嫁には呉れじ」の「嫁」とは「嫁が君（ネズミのこと）」の略で、それを嫁・姑の「嫁」と解するのは後世に生じた誤解であるとする説があそうです。

・「親の小言と茄子の花は千に一つの無駄もない」

ナスの花が結実する割合が高いことに、親の小言を喩えた諺。

・「瓜の蔓に茄子はならぬ」

平凡な親からは非凡な子は生まれない、という意味。似た諺として「蛙の子は蛙」があります。

＊お盆の期間中には、故人の霊魂がこの世とあの世を行き来するための乗り物として、「精霊馬」と呼ばれるキュウリやナスで作る動物を用意する風習がありますが、キュウリは足の速い馬に見立てられ、あの世から早く家に戻ってくるように。ナスは歩みの遅い牛に見立てられ、この世からあの世に帰るのが少しでも遅くなるように、また、供物を牛に乗せてあの世へ持ち帰ってもらうとの願いが込められているそうです。